

大宰府政庁跡と文化遺産

■ 1. 大宰府の成立

大宰府が置かれた筑紫の地は、日本と大陸の接点に位置し、国内はもとより東アジア世界の動向を反映して、歴史上重要な役割を担ってきました。

660年、日本と親交の深かった百済が唐・新羅に滅ぼされ助けを求めてきます。これを承けて、斉明天皇は筑紫に下り、自ら百済救援を指揮しようとするのですが、まもなく朝倉橘広庭宮（福岡県朝倉市）で没してしまいます。さらに663年の白村江の戦いで百済・日本連合軍は、唐・新羅軍に大敗を喫しました。

唐・新羅の来襲に備えるため、天智3年(664)、対馬・壱岐及び筑紫国等に防人と烽を置き、また筑紫には水城を築造します。翌年には、百済の亡命貴族を遣わし大野城・基肆城を築かせています。防衛施設の大土木工事が次々と着手され、これらに守られた地に

「大宰府」が設置されたと考えられます。昭和43年(1968)にはじまった大宰府跡の発掘調査においても、7世紀後半の掘立柱建物(第I期)が検出されています。

8世紀になると大宰府は、日本が律令国家へと体制を整えるに従い、組織が整備され、ここに名実ともに大宰府が成立したと考えられます。



■大宰府政庁(第Ⅲ期)復元模型
九州国立博物館蔵 九州歴史資料館提供
政庁城の建物は、朱の柱に瓦を葺いた京の朝堂院形式を模した建物でした。

■ 2. 大宰府の役割

また、大宰府のはたす役割も当初の対外防衛的色彩の濃いものから、外交そして九州全体を治める律令制下最大の地方官衙(役所)へと変わっていきます。その中核施設が大宰府政庁なのです。建物も礎石を使い、瓦を葺いた大陸風の立派なものに変わります。

そこで働く官人は、令に規定されているだけでも50名に及び、その他雑務に携わる者などを入れるとその数は1000名を超えたといわれます。西海道諸国の国司や郡司の選考権を持ち、調庸などの税を九州中から集めるなど、大宰府は九州全体を統轄し、各国の内政に深くかかわりました。政庁の周辺には多くの役所が建ち並んでいたと考えられ、西側の丘には「蔵司」の地名とともに礎石が残っています。政庁の東にあった学校院では、大宰府管内の郡司の子弟たち200余名が官吏になるために、漢籍・算術・医学を学んでいました。また外国からの使節を迎え、あるいは日本から外国への使節を送り出すという対外交渉の窓口としての仕事も大宰府の重要な役割でしたが、現在の福岡市にあった筑紫館(鴻臚館)はそれに関わる施設のひとつです。

天平18年(746)、80年の歳月をかけて観世音寺が完成します。天平宝字5年(761)には、当時、日本に3ヶ所だけの戒壇の一つが置かれ(戒壇院)、観世音寺はまさに「府の大寺」として、その大伽藍を誇っていたのです。また、大宰府政庁の西北には筑前国分寺・国分尼寺が建立されました。

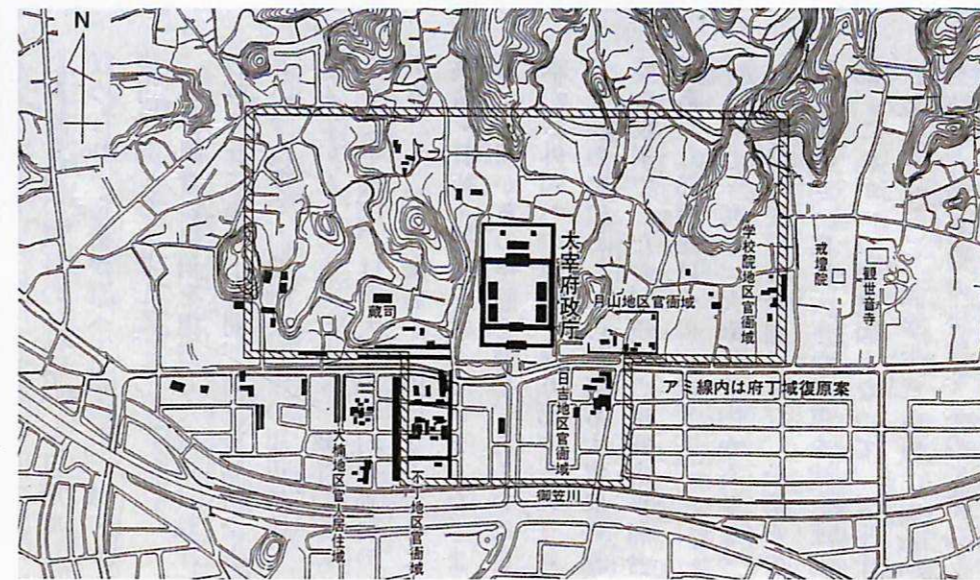
文化遺産① ~大宰府への想い 3つの石碑~

政庁跡を訪れると正面奥の場所(正殿跡)に3本の石碑が建っているのが見えます。中央に位置する「都督府古趾」碑は、乙金村大庄屋の高原善七郎が歴史ある大宰府政庁跡に標石すらないことを憂い、明治4年(1871)に自費で建立したものです。左側の「太宰府址碑」は、地元である御笠郡の人々の働きかけにより、明治13年(1880)に建立されたもので、碑面には大宰府の由来が彫られています。右側の「太宰府碑」は、福岡藩学問所の教授であった亀井南冥が建立しようとしたものでしたが、藩の許可が下りず、没後100年経った大正3年(1914)に門下生らの尽力により建てられました。

建てられた時期は違っていますが、どの石碑も先人達の「大宰府を未来に伝え残さなければならない」という想いが込められた大切な文化遺産です。



◀ 大宰府庁域復元案



「だざいふ」の大と太

律令政治機構の役所を指す場合は「大宰府」と大を使い、現在の行政名「太宰府市」や「太宰府天満宮」は太を使います。

■ 3. 変質 権威としての大宰府

「人物殷繁にして、天下の一都会なり」(『続日本紀』)と自ら誇った大宰府も次第に変質していきます。長官の帥は任命されても赴任せず、実際に現地で府政にあたったのは、権帥や大式でした。時代が下ると、実権はさらに下級官人に移っていきます。このようなことから府官人の土着化あるいは土豪の府官人化が進みました。天慶4年(941)、伊予の海賊藤原純友に攻められ大宰府は焼け落ちますが、その後再建されています。現在、地表に残る礎石はこの時のものです。

平安時代も後半になってくると、平清盛そして弟頼盛が大式に就任し、貿易の権限を掌握しようとした。平氏滅亡の後、鎌倉幕府の成立により、律令制下の「大宰府」はその機能を終えます。大宰府がいつ廃絶したかははっきりした時期はわかりませんが、近年の発掘調査によると政庁域は12世紀の前半にはかなり荒廃していたのではないかと考えられています。7世紀後半から約500年続いた大宰府は、ここに終わりを告げます。しかし、建物としての大宰府はなくなっても、権威としての「大宰府」は生き続け、鎌倉幕府の守護また鎮西奉行として下ってきた武藤氏は大宰少式となることによって名実ともに九州を支配しました。大宰府を居城とし、後に武藤姓を改め、少式を称するようになるのも、その権威ゆえだったのでしょう。南北朝時代に、懐良親王、菊池氏を中心とする南朝方の征西府が一時置かれたのも、戦国時代、少式氏に対抗するため周防の大内氏が大宰大式を熱望し、義隆がこれに補任されたのも、その権威の力といえるでしょう。

文化遺産② ~坂本八幡宮~



政庁跡北西に鎮座する坂本八幡神社は、戦国時代の天文・弘治年間頃に勧請されたと伝わる神社です。現在も氏子会によって春ごもりや神辰しなどさまざまな行事が行われており、坂本区の鎮守として地域の方々から大切に祀られています。

また、境内には大宰帥大伴旅人が詠った「わが岡にさ男鹿来鳴く 秋萩の花婿問ひに 来鳴くさ男鹿」の万葉歌碑が建てられています。この辺りが、大宰帥の邸宅跡との説もあることによるものです。この歌には、赴任後まもなく妻を亡くした旅人の心淋しい暮らしの心境が込められてもいるようです。

■ 市民の憩いの場として



現在の政庁跡は歴史のまち「太宰府」を代表する史跡としてだけでなく、太宰府市民の憩いの場としても親しまれています。また、歴史ある場所にちなみ、古都の光、太宰府市景観・市民遺産第6号に認定された「時の記念日の行事」をはじめ、さまざまな行事が行われており、太宰府の人々にとって欠かせない存在です。



特別史跡
大野城跡
(四王寺山)

国史跡
宝満山



筑前国分寺跡



大野城跡 (百間石垣)

● 竈門神社



宝満山
太宰府市観光交流課提供

太宰府IC

国史跡
国分瓦窯跡

● 太宰府市文化ふれあい館

国史跡
筑前国分寺跡

● 太宰府天満宮

西鉄
下大利駅

JR
水城駅

● 九州国立博物館

特別史跡
水城跡

特別史跡
大宰府跡

国史跡
観世音寺

国史跡
大宰府学校院跡

西鉄
太宰府駅



観世音寺



水城跡
太宰府市教育委員会提供

大宰府
展示館

● 太宰府市役所

西鉄
都府楼前駅

西鉄
五峯駅

推定
「客館」跡

西鉄
二日市駅

JR
都府楼南駅



大宰府跡

JR
二日市駅

いま 現代につながる太宰府の歴史 — 史跡と文化遺産 —

太宰府市には、九州全体を治めていた大宰府政庁跡をはじめ、大野城跡、水城跡、観世音寺、太宰府天満宮、九州国立博物館といった史跡や名所がありますが、その他にも行事や伝承、地域の人達に守り受け継がれてきた文化遺産が数多く残されています。大切に守り育てられ、現代にまでつながる太宰府の魅力を再発見してください。